

劔岳チンネ左稜線(本峰越え) 山行報告書

【山 域】 北アルプス北部

【コース】 劔岳チンネ左稜線 (本峰越え)

【日 時】 平成30年8月9日(木曜日)～平成30年8月12日(日曜日)

【メンバー】 CL:上茂, 食料:萱野(香), 記録:花島

【コースタイム】

8/9(木) 晴れ 室堂 9:30～劔沢キャンプ場 13:00
8/10(金) 曇りのち雨一時晴 劔沢 2:00～劔岳 6:20-6:35～長次郎のコル 7:50-8:20～
三の窓 10:15-10:50～左稜線取付 11:30～終了点 20:00
8/11(土) 曇りのち晴れ 終了点 5:00～長次郎のコル(デポ地) 9:00～10:45～
劔岳 12:15～12:40～劔沢 18:00
8/12(日) 曇りのち晴れ 劔沢 7:20～室堂 11:00

【山行報告】

6月半ばに日程とメンバー決定のメールをもらい、春先から聞いていたチンネ計画がいよいよ現実味を帯びてきました。その後ふたりは三つ峠、つづら岩と順調に課題をこなしていきました。一方私は、ちょっとライミングに行ったところで目に見えて上達するわけもなく、コンディションの維持と休暇の取得の調整がせいぜいでした。

体力的に一気に熊の岩ベースまでは登れないだろうという事で、真砂沢をベースにして長次郎谷経由でアタックという計画としました。ただ、長次郎雪渓の状態が悪く通行困難との情報があり、まさかの本峰経由北方稜線からのアタックに変更になりました。(じゃ来年、という話は一切なかったです)重荷で本峰を越えて三の窓ベース入りは無理との判断から劔沢ベースでチンネ登攀後三の窓でビバーク、翌日一気に下山する二泊三日の最終計画となりました。

直前の8/4(土)に、3人での登攀スタイルの実践と最終打合せを兼ねて稲子岳に行ってきました。ここでトップ交代時にロープが絡むとう課題は残りましたが、下の二人がビレイとロープ処理を分担することで一応の対策としました。まあ、支点の状況にも依るので、その場に応じて対処するしかありませんが、想定していれば対応もし易い。北八ツでのクライミング、これはこれで楽しかったです。

あとは天気だが、台風13号の影響もあり、これには最後まで振り回されました。出発前日にアタック日の予報が悪く、その後は安定することから出発を一日スライドしました。平日にアタックするには、これ以上はずらせない。出発当日の午前中予報では、入山から3日間雨予報で、晴れは12日のみの予報が・・・。他に転進?も過ぎるが、予報がいい方に急変し、出発を決定する。本当に天候の判断は難しい。

萱野さんは先月バットレスを逃しているので、今回は譲れない気持ちもひとしおだと思う。

関東圏に台風が接近する中、千葉を19時に出発する。勝沼辺りまでは雨模様であったが、甲府辺りからは路面も乾いていて、扇沢の市営駐車場では満天の星であった。平日のためガラガラで仮眠テントもしっかり張ることができた。

【8/9(木)】 今日、劔沢キャンプ場まで行けばいいし、トロリーバスの始発も7:30なのでノんびりしたものだ。平日とはいえ6時前には駐車場も大分騒がしくなってきた。天気は上々というより、暑くなりそうな気配だ。

装備分担し、パッキングすると「なんなんだ、この重さは」。予備日を含めて4日、登攀具の他に三の窓から取付きまで、時間にして15分程度しか使わないピッケル、アイゼンも入っている。ビバークもツェルトではなくテントで少しでも快適にという事でテントが2組。ちば山に入って最重量だと思う。

これを背負って三の窓までは、考えられない。上茂さんは9年前、本峰越えからチンネ登攀後、北方稜線経由で帰ったとのこと。元気があったんですね。

平日で切符販売窓口、改札の混雑は大したことは無いが、その分車両は少なく台当たりの混雑に変わ

りは無かった。ザックと手荷物の処理が大変。ステップの昇り降りやザックを背負ったり降ろしたりが忙しい。

黒部ダムや室堂では手持ちカメラのシャッター押しにかこつけ写真を売りつける輩にシャッターを押してもらった写真がこれだ。輩の写真とは雲泥の差だった。でも買わない。意地でも買わない。



(気持ちはだけは観光客気分)



(観光放水はダム上からはチョット観づらい)

アルペンルートの乗り換えに追い立てられるように慌ただしく室堂に到着する。どこの改札でも駅員を兼任する売り子(売り子兼任の駅員?)の口上に思わず笑いが込み上げるが、これ以上の荷物はゴメンなので、知らんふりを決め込む。休憩所で朝食を済ませ、観光は一切なしで、劔沢へ向け出発する。



(乗り換えの合間に、大急ぎで記念撮影 バックは針ノ木岳、赤沢岳) (浄土沢)

(閑散とした劔沢野営場)

階段を下りる度に帰りはここを登ると思うと気が滅入ってくる。遊歩道なのになんでこんな段差にするかなあ。雷鳥沢からは本格的な山道だが、今年は雪渓を歩くことなく別山乗越を経て、無事劔沢キャンプ場に到着できた。天気はいいが稜線付近にガスが掛かり肝心の展望が望めない。

ほぼコースタイムで歩けたようだ。テント場は30張りあるかないかで、水場に近く平坦で広い場所に運よく設営する事ができた。



(ガスの晴れ間を縫っての記念撮影)



夕飯まですることもなく、飲むことにする。キャンプ場に売店が無く、サンダルのまま劔沢小屋まで足を伸ばし、ビールで乾杯する。なんで生がないの? (劔山荘には生ビールはあるし、シャワーはあるし、泊まるなら絶対劔山荘がオススメ) 一瞬ガスが張れたので記念撮影をして退散するも、帰りはテント場までがホント遠かった。

背負う荷と水の問題を考慮し、ビバーク予定地を三の窓から長次郎のコルに変更する。アタックに備

え、持って行く物の取捨選択を繰り返すが、結局ほとんど置いていく物がなかった。

【8/10(金)】 今日のアタック日、長い一日になる。集中を切らさず乗り切りたい。

2時にヘッドンを頼りに出発する。剣山荘で水を補給（行動水の他に4L）し、ガスの中別山尾根を登る。一般道とはいえ重荷での岩場の続くコースはキツイ。元気な若者2人組に追い抜かれ、男性単独の3人にも抜かれ劔岳には6：20到着。



(劔岳山頂はガスの中にも見えない) (北方稜線を北上) (長次郎のコルでビバーク装備, 食料をデポ)

先ほど抜かされた地元の方の話によると、今まで晴れた日以外劔岳に登ったことが無いという。天気予報をチェックして確実に晴れるという確信がないと劔岳には登らないという。その人が、「こんなのは初めてだ」という。晴れを確信して登ったのにこんな天気とは、不吉なことが起きる前兆のようで、先行きに不安を覚える。



(長次郎ノ頭を回り込む) (池ノ谷乗越への下り 割と長い) (池ノ谷ガリ-の下り 正面:小窓の王)

本峰から先、北方稜線はルーファイに苦勞するも、予定した長次郎のコルにビバーク品をデポし、ようやく軽くなったザックで三の窓を目指す。4年前に同じルートを通っているが、迷ったという記憶はない。ただ、忘れてしまっただけなのか？

池ノ谷乗越から池ノ谷ガリ-の不安定なガレ場を降りる。他のパーティーがいないのが、せめてもの救いだが、右に左に一番安定していそうな場所を選びながら慎重に下る。ここは登りたくない。3歩進んで1歩登れるかどうかだろうから。この頃からガスが切れ青空が覗く。



(三の窓からチンネ左稜線下部を望む)

(チンネ左稜線のスカイライン)



(三の窓から雪渓をトラバース)



(左稜線取付き 奥は三の窓)

結局、今日一日で晴れたのは三の窓にいた間だけ。でもチンネ左稜線のスカイラインが拝めただけでもヨシとしよう。この雪渓通過のためだけに背負ってきたアイゼン、ピッケルを装着し、思った以上に傾斜のある雪渓を横断する。

取付きが11:30なので、キャンプ場を出てから実に9時間30分をかけてようやくクライミングのスタート地点に立つことができた。アルパイン半端ないって。

ガスが湧き始めた中、1P目上茂さんトップで登攀開始する。

クラシクルートらしく支点は錆びついたハーケンばかりだ。T5までは2~3ピッチでトップを交代する。



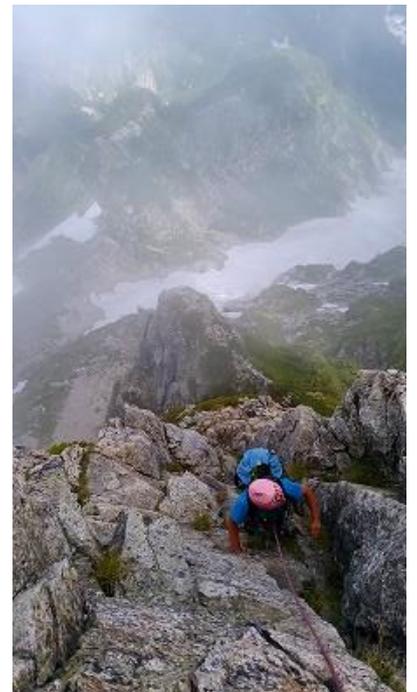
(1P目の凹角)



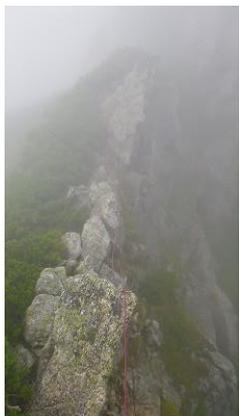
(2P目)



(4P目)



(3P目)



(5P目 草付リッジ)

リッジや凹角はルートが追い易いが、フェースはどこも登れそうだがロープの流れが悪くならないよう直線的に伸ばそうとすると支点が見つけられず間隔がついつい遠くなってしまふ。ロープが極端に重くなり正規の支点まで伸ばせず、途中で切らざるを得ずタイムロスする。視界が利かず素晴らしい眺めも得られないが、高度感も一切感じられない登攀が続く。天気がだんだん怪しくなりたまにポツポツと落ちてくる。T5から核心のピッチだというのに、天気は悪くなる一方だ。

核心は上茂さんリードで着実にロープを伸ばしていく。ランニングビレーをなんとかやりくりしてビレー解除コールがある。V級の壁は、にわかクライマーに登れる訳もなく、使えるものは何でも使う要領で何とか登り切る。萱野さんは苦も無くクリアしてくる。普段からやってる人とは厳しい場面になる程、差がはっきりと出る。

とりあえずの核心は越えた。が、日没も近い。雨も降りだし風も出てきたようだ。

カッパの上だけ着てツェルトを被り、小休止がてらやり過ごす。



(6P~7P目 フェース)



(8P目 ピナクルが林立するリッジ)



(核心の9P目)



(9P目抜けたところかな? 記憶が曖昧)

こんなところでビバークは遠慮したいので、登攀再開。10P目は萱野さんトップ。ジジイにはコンディションが良くても躊躇するところだが、迷いが無い。クライミングでは世話になりっ放しで申し訳ない気持ちでいっぱい。日没になり、ヘッドン頼りのクライミングとなる。雨も一向に止む気配が無い。こんな状況でよくルートが追えるもんだ。

リッジだし、本来なら高度感を感じる場面だと思われるが、暗いし雨だしロープの伸びてる方向をヘッドランプの明かりを頼りに追うのが精一杯で、高度に対する感覚は麻痺しているようだ。雨の降る中、終了点に着いたのは、なんと20時。

18時間に及ぶ苦闘の一日でした。これからデポ地の長次郎のコルまで行くのは無謀なので、ここでビバークすることにする。明日の朝まで、耐えるしかない。

3人がなんとか岩に寄り掛かって座れ、ツェルト1枚被るだけのビバークになってしまった。シュラフもマットも食料、ガス、水も当然デポ地に帰れるつもりでいたのが無い。残った行動食と行動用の水があるだけ。体育座りで一晩って有り得ない。これ以上天候が悪化しないことを祈るばかりだ。

【8/11(土)】 明るくなるのを待って行動開始する。設営当初はファスナーを閉じていたツェルトが、楽な体勢を取るうちに全開になっていた。夜間の冷えも我慢出来ない程ではなく、無事朝を迎える事ができた。

あいかわらず小雨模様の天気だ。1P懸垂して、コルから池ノ谷ガリーに向かってさらに2Pの懸垂でガリーに降りる。ガリーを登り返し、北方稜線を南へ。

昨日通ったばかりなのにルートを見失い右往左往する。頭が働いていないのか、単にバカなのか。デポ地は見えるのに行きに通ったルートに出られない。

北方稜線ホイホイに捕まったようだ。最後はロープの下がっているところから懸垂で降りてしまった。行きに通ったルート以外に少なくともロープ設置箇所が3箇所あり、他の2パーティーも我々とは違うところから懸垂で降りてきていた。北上より南下の方がルーファイ難しいのかな。

当初計画では三の窓から一気に下山することにしていたが、アルペンルートの最終に間に合う気がしない。食料にも余裕があり、予備日を使うことに決定。今日は劔沢キャンプ場まで帰るだけとなった。



(終了点のすぐ脇でビバーク)



(源次郎尾根は大盛況)

(無事デポ地に戻ってきました 出発してから実に24時間後の事)

さっきまでの曇天が嘘のように一気に晴れだした。濡れたものをそこらじゅうに広げて乾かしまくる。せつかく担ぎ上げた食料も水も遠慮なく消費する。

源次郎尾根は大盛況のようで、人が列を成している。いつまで休んでいるわけにもいかず、パッキングして重い腰を上げる。軽くなったはずのザックが、疲れた体には昨日以上に重く感じる。昨日とは違って、最高の天気で劔岳は待っていてくれた。さすが山の日、登山者も多い。百名山の最後を劔岳で迎える登山者(自作の百名山達成のバナー持参)に、ごっつい一眼レフカメラを渡され記念写真撮影を頼まれ、言われるまま何度もシャッターを押し続けた。スマホでもお願いしますと頼まれ、さらにシャッターを押し続けました。こっちはむくんだ足を解放すべく裸足だっていうのに。

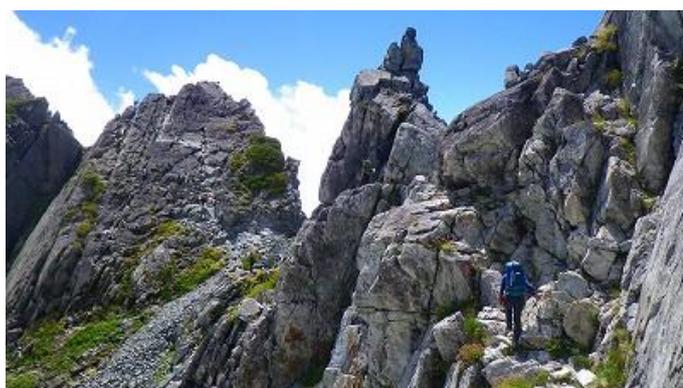
周りからも祝福されていましたね。晴れやかな姿でした。うれしそうでしたね。



(昨日に続き二度目の劔岳登頂)



(早月尾根と雲海)



(劔岳から別山尾根の下り)



(劔沢小屋が見えてきました)

この先はペースダウンと休憩を繰り返し、キャンプ場に着いたのはなんと18時になっていました。ビバーク地出発から13時間も掛かってしまいました。ビールも売り切れ。劔山荘の生ビールが恨めしい。

【8/12(日)】 今日には室堂まで降りるだけだ。天気ははっきりしないが、雨さえ降らなければいい。別山乗越からも何も見えない。いかにも硬派な感じの女子グループ、景色見えないけど別山北峰まで行く？とコースタイムを読み上げてるグループ、早く降りる事しか考えていない我々、いろんな人がそれぞれいろんな思いで登っているんですね。

雷鳥沢からはキャンパー、観光客がいっぱい。遊歩道を立ち止まる人、堂々と真ん中を歩き避けるそぶりも見せない人等様々だ。いちいち腹を立てても仕方ない。室堂も屋台が軒を連ねていたが、接続の一番早い車両に乗る。行きの閑散としていた黒部ダムは人、人、人であふれていた。

4日間も山に行ったのはちば山に入って初めてことだし、本気にクライミングするなら、しっかりトレーニングをしないとダメだって実感した山行でした。膝を抱えて一晩過ごしたビバークは、もう経験したくない。体力とスピードはいまさら上げようがないし、方向性も含めて色々と課題の残る山行でしたが、これまでの経験が生かされた山行にもなりました。誘っていただきありがとうございました。



(左：現行トロバス 右：新電気バス)

興味のない人には何の話ってことですが、扇沢—黒部ダム間の関電トロリーバスの運行が今年11月で廃止（鉄道事業も廃止です）、来年4月からは電気バスに切り替わりますって話です。

充電式とはいえ車載パンタグラフは残りますので、外観からはどう変わるのか実際写真を見てもピンとはきませんね。

以上